

平成27年度第3回

札幌市市民活動サポートセンター運営協議会

議 事 録

【議事ダイジェスト版】

日 時：平成27年7月13日（月）午後7時開会  
場 所：札幌エルプラザ公共4施設 2階 会議室3・4

○隼田座長 平成27年度第1回運営協議会の議事に入らせていただきたいと思います。

本日は次第がございますように三つの議題がございます。

一つ目は、平成26年度事業実施及び施設運営状況についてです。二つ目は、平成27年度事業計画についてです。三つ目は、平成27年入居分事務ブース使用団体選考についてです。

それではまず、一つ目の議事としまして、平成26年度事業実施及び施設運営状況について、事務局からご説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### 【平成26年度事業実施及び施設運営状況】

○事務局（森口） 平成26年度事業実施及び施設運営状況についてですが、1月に行いました運営協議会において中間報告をさせていただいておりますので、ここでは1月以降実施分の事業と通年事業に絞ってご説明いたします。

まず、全体をとおした自己評価です。

市民活動相談事業では、税理士による「税務会計相談」を新規実施いたしました。このことにより、組織運営に係る専門的な相談体制の構築を図ることができました。

情報発信においては、広報に係る環境整備として、市民活動サポートセンターのフェイスブックページを設置し市民の方へのタイムリーな情報提供を図りました。

市民活動に係る研修、学習については二点ございます。一つ目は、初心者向けの講座やインターンシップを実施することにより対象に合わせたスタート支援ができました。二つ目は、既存の市民活動団体の方たちに対しては、活動に則した内容の学習機会の提供を行うことができました。

交流活動支援事業については、多くの市民活動団体の方が連携や交流できる機会を創出したほか、活動協会指定管理施設と連携し、地域の持つ課題解決のためのきっかけとなる事業を実施しました。

次に、個別の事業についても、簡単に説明させていただきます。

市民活動サポートセンターは四つの機能、情報収集提供・相談、研修・学習、交流活動支援、団体活動支援を柱として各種事業を実施しております。

一つ目の機能、情報収集提供・相談についてです。

利用団体登録についてです。3月31日現在で2,415団体、そのうちNPO法人は358団体となっております。施設のPRも含めてより多く市民活動団体やNPO法人の方に使っていただけるように進めたいと考えております。

情報発信サポート事業についてです。市民活動団体を紹介するはがきサイズのカード「団体紹介カード」を作成しました。

記載内容としては、各団体の活動写真や活動目的のほかに、活動内容や所在地情報などです。リーフレットなどをお持ちでない市民活動団体等を中心に申し込みがありました。

市民活動相談についてです。

平成26年度の相談件数は654件となっております。これは、前年同月比の3月比の56.7%です。

より専門性の高い相談対応を目指し、内容を精査しカウント方法を変更したためこのような数値となっております。相談対応については、今後も職員のスキルアップを図り、より多くの方に有益な相談となるように、強化実施していきます。

新規事業の専門相談についてです。

こちらは、税理士の方を専門相談員として月1回実施したものです。

相談件数については、9件でしたが、相談内容としては、個別的な通常の相談ではなかなか答えられないような部分も寄せられておりました。

その中から2点ほどピックアップしてご説明いたします。

一つ目は決算の方法についてです。

現金出納帳を日々つけているが、決算などはどうすればよいかということでした。NPO法人に所属する方だったのですが、ふだんは単式簿記で会計処理を行っています。決算期には、複式簿記での処理が求められるのですが、その際に具体的にはどのような事務処理をすればよいかという相談内容でした。実際に資料をお持ちになり、相談員から説明を受けておりました。

二つ目は、財産取得についてです。

不動産の取得をする予定であるが、その際の課税はどのようになるのか、また、所有については会員と共同した方よいのか、相談内容でした。

こちらについては、課税率などについて専門の相談員が回答しております。また、所有についても、法人の財産ということであれば、会員と共同ではなく、法人として所有すべきという回答をしております。

これらのように、個別的な会計、税務の相談について回答できる税理士による専門相談を開設できたことは、評価点であると考えております。

相談員研修についてです。

相談機能のレベルアップが主な目的として相談員および職員を対象に実施しました。平成26年度については2回実施しております。第1回は、NPO法人の税務、会計をテーマとして、NPO法人会計基準や消費税について専門研修を行いました。

第2回は、人と組織と地球のための国際研究所の川北秀人さんを講師にお迎えし、これからの市民活動の形と必要な支援をテーマとして、中間支援施設運営の観点について研修しました。

二つ目の機能、研修・学習についてです。

市民活動はじめて講座についてです。

これは、全4回の実施し、参加者数は延べ80人でした。定員充足率100%となっております。ニーズとしては高い講座であるため平成27年度につきましても継続実施して

おります。

NPOマネジメント講座についてです。会議・合意形成、アンケート、NPO会計の3テーマで実施しました。会計講座はニーズが高く延べ102人の参加がありました。

三つ目の機能、交流活動支援についてです。

フォーラム事業についてです。

第2回は、人と組織と地球のための国際研究所の川北秀人さんをお招きし、対話や協働がまちを変える力になるということをお話しいただきました。2時間半の講座だったのですが、アンケートには「時間設定が短かった」という意見をいただいております。今後も、先進的な活動に取り組む方たちのお話しをお伺いする機会を設け、これからのまちづくりにつなげていきたいと考えております。

サロン事業「しみサポつながるカフェ」についてです。

全6回実施し、延べ275人の方にご参加いただきました。サロン事業については、今年度も継続実施しておりますが、市民活動団体の方に話題提供していただき内容の充実を図っております。

トライアル出展サポート事業についてです。

エルプラザ1階のエントランスホールを活用した市民活動団体の成果発表機会創出事業で、平成26年度当初1回実施の予定でしたが市民活動団体の方からの要望も高く、また、市民の方の関心も高い事業であったため2月に2回目の実施をいたしました。

2月はNPO法人札幌VOと一般社団法人日本UD観光協会の2団体が出展しております。NPO法人札幌VOは、市内のフリースクールを運営するNPO法人ですが、青年たちの社会意識や社会参加のきっかけとしてフェアトレードに取り組んでおり、出展ではフェアトレード品の販売や告知を行いました。一般社団法人日本UD観光協会は、観光部門でのユニバーサルデザインについて進めている団体です。今回の出展では、看板などの読み上げなどの機能を持つアプリケーションの紹介などを行いました。

地域化モデル・アウトリーチ事業についてです。

この事業につきましては、札幌市若者支援総合センターと連携して実施しました。具体的には、札幌市若者支援総合センターが主催する「まちなにぎわいづくり事業プランコンテスト」に市民活動サポートセンターが、事業についてのアドバイスや市民活動団体との橋渡しを行いました。

若者たちからは、ユニホックを使った地域での世代間交流の機会を創出したい、企画が提出され、そこに一般社団法人フロアボール振興協会が賛同し事業協力をいただきました。

フロアボール交流会については、豊平区の児童会館も参加し、大人の部と子どもの部に分かれ、リーグ戦による交流試合を実施しました。

四つ目の機能団体活動支援についてです。

事務ブースの提供や会議コーナー、ロッカー、レターケース、パソコン、無線LANの提供、印刷作業室などを継続事業として平成26年度にも実施いたしました。

その他、指定管理業務外ですが、二事業実施しました。一つ目は、特定非営利活動法人所轄庁事務補助業務です。NPO法人の縦覧閲覧コーナーの設置と事業報告書の取り次ぎ、ホームページで紹介するためのデータ化を行いました。

二つ目は、地下歩行空間を利用したまちづくり情報コーナーの管理運営です。こちらは札幌駅前通地下歩行空間北大通交差点広場（西）に設置しているチラシ棚に市民活動団体の作成した事業チラシの配架をしました。

最後に、年間の利用統計についてです。

利用件数は1万9,031件の前年比81.5%、利用人数は7万729人の前年比89.8%となっております。平成26年度は前年度を下回る数字となっております。

こちらについては、利用層の変化、具体的には若者層の利用の増加とシニア層の利用が減少しているという傾向が日々の利用の中で見られます。それに伴い利用時間の短時間化の傾向もあるようです。区分ごとの利用件数、利用人数の計算になっておりますので、区分をまたがない利用になると件数が減少します。

一つ目の議題の平成26年度事業実施状況及び施設運営状況についてのご説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

それでは、説明内容につきまして、何かご質問等はございますか。

特にはよろしいですか。

（「なし」と発言する者あり）

○隼田座長 それでは次に、二つ目の議事の平成27年度事業計画について、事務局からご説明いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局（森口） 平成27年度事業計画書についてご説明いたします。平成27年度の事業計画に関しましては、前回の協議会の中でいただいたご意見、アイデアを反映し立案いたしました。重点目標として次の3点を設定しました。

一つ目は、市民活動団体の運営支援につながる研修学習事業の拡充、及び情報発信機会の拡大を図る。二つ目は、子ども若者及びNPO法人に対する具体的な体験プログラムや研修機会を提供することにより、スタート支援を充実させる。三つ目は、中間支援組織との連携を強化し、公益的な市民活動の支援ネットワークを構築する。

次に具体的な事業内容についてです。新規事業が二つございます。一つは、NPO法人の設立講座です。もう一つは、子どもボランティア体験プログラムでございます。

NPO法人の設立講座に関しましては、前年度から実施している市民活動はじめて講座の流れをくむものです。今年度は、さらにステップアップしてNPO法人を具体的にどのような考えや視点、準備が必要かということ体系立てて進める予定でございます。これは、12月に実施する予定で、市民活動相談員と準備を進めているところです。

この背景としましては、今年度はスタート支援事業について、NPOはじめて講座と銘打って実施しております。その結果、参加する方はNPOという3文字からNPO法人を

連想するらしく、多くの方からNPO法人についての話を聞きたいという声がありました。そのニーズを受け、設立要件などNPO法人について特化した講座を計画しました。

二つ目は、子どもボランティア体験プログラムです。

こちらにつきましては、夏休み期間を利用し小学校中学年から中学生までの児童生徒を対象に実施するものです。

この事業は市民活動団体を受け入れ先として体験学習を行うものです。事業タイトルについては、子どもたちが聞きなじみのあるボランティアという言葉を使用しました。

受け入れ先としては麻生キッチンりあん、NPO法人サッポロ・ミツバチ・プロジェクト、シニアサロン晴れプラス、NPO法人「飛んでけ！車いす」の会、NPO法人猫と人を繋ぐツキネコ北海道の5団体を選定しております。コミュニティカフェや、動物、高齢者、障がい者福祉、国際協力など、子どもたちが社会活動としてイメージしやすい内容を有しています。

多くの子どもたちが参加していただき、市民活動について学んでいただきたいと思います。

レベルアップ事業の六つございます。

一つ目は、市民活動情報誌「みんなのしみサポ」です。

6月に最新号の39号を発行したところでございます。こちらは、これまで年3回発行であったところを年4回発行いたします。

内容としては、より市民の方が親しみやすいテーマをメインに据え、周知や啓発、参加促進を図っていけるような誌面づくりにリニューアルいたしました。

二つ目は、NPOマネジメント講座です。テーマおよび実施回数を増加いたします。現在一つ目のテーマの会計講座を実施したところですが、今年度はこれまで参加した市民の方の意見を反映し小規模・任意団体向けの内容で実施いたしました。次のテーマは、広報戦略です。この他、ファンドレイジングや事業報告書及び活動計算書をテーマとして専門講座を実施いたします。

三つ目は、NPOインターンシップです。

若者層に非常に有益な事業ということもあり、今年度は受け入れ団体数を増加し実施いたします。新規事業としてご説明差しあげました、子どもボランティア事業と内容を連携して、子ども、若者について総合的に計画および実施をいたします。具体的には、NPO法人ezorockの他に麻生キッチンりあんやNPO法人「飛んでけ！車いす」の会を受け入れ先として計画を進めております。

NPOインターンシップ事業と子どもボランティア事業が連動させ、札幌の子ども・若者の支援について、考えていくための基盤にしていきたいと考えております。

四つ目は市民活動フォーラムです。

先進的な取り組みを行うNPO団体の方を講師に迎え、より多くの方に参加いただけるフォーラムを実施する予定です。

五つ目のサロン事業です。

今年度は、話題提供者として市民活動団体の方に登壇いただき、より専門的、実際的な情報提供を進めております。現在、全6回中2回実施し、NPO法人ほっかいどうピーストレードと特定非営利活動法人K a c o t a mに話題提供者になっていただきました。

六つ目のトライアル出展サポート事業です。

第1回実施分につきましては、NPO法人ほっかいどうピーストレード、PPK研究所、文化コミュニティおきなわ工房、NPO法人札幌VO、特定非営利活動法人コミュニティーワーク研究実践センター、NPO法人みらい号の6団体が採択されております。

それぞれ、活動を伝えるということを目的に各出展内容を企画されています。

新規事業およびレベルアップ事業については以上です。その他のについても年間事業計画書どおり実施いたします。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

委員の皆さんからご質問のほかにアイデア、ご意見等がございましたらお願いしたいと思います。

先ほどの平成26年度の報告でもございましたけれども、この場所を活用する方々の年齢層の変化とかいろいろなことが起きています中で、市民活動サポートセンターをより活性化させていくために、何かご意見をいただくとありがたいです。

草野委員、お願いいたします。

○草野委員 去年からお手伝いさせていただいているのですが、NPOのインターンシップを少し推進していきましようということで、今年も少しかかわらせていただけたらなと思っております。

狙いとしては、今、うちの団体でも起きていますが、ちょっと変化してきています、学生ではないのです。今、社会人になってから参加したい層がふえてきているのです。大学生のうちに、ほかのNPOに活動する機会をつくっておくと、社会人になった後も実は続けたいと考えるのです。しかし、その受け皿のなっている団体自体も余り多くなくて、その層がふわふわ浮いている状態になってきています。恐らく、結婚や出産する前の段階までの期間というのは少しあいているのです。特に、就職先として比較的大手の企業であったり、職場環境がしっかりしているところであればあるほど、ある程度定時に上がれるので、アフターファイブでも活動をしたいという層が出てきているのです。

ここの施設の利用者数は、学生は伸びていると思いますが、社会人の人たちはまだだと思います。しかし、そこは非常にいい層だと思っていて、学生だと卒業すると、その後は活動が続かないという傾向がありますが、社会人になってから続ける方は3年、4年と比較的長く続ける傾向があります。この層を、札幌だけではなくて、北海道での市民活動に参加させていくのは重要な役割かと思えます。

そういう意味では、ここの施設を利用している人たちの次のステップをインターンシップからつくっていきけるようなきっかけがつかれるのではないかと私は期待しております、そのような考えを持っております。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

学生が少しずつふえているといっても、今の草野委員のご指摘にありましたように、学生の場合は、卒業するとどこに就職してしまうかわかりませんし、本人自身は、もしかするとその就職した先、転出先などでも活動されているかもしれませんが、札幌に残って活動する人数のことを考えますと、その先札幌でちゃんと稼いで生活をしている人たちをどうやって取り込んでいくかというのは、非常に重要なことかと思いました。

今に関連したことで結構ですし、それ以外のことで結構ですが、何かご意見等がございますでしょうか。

荒井委員、お願いいたします。

○荒井委員 こんばんは。荒井です。

今の就職してからの市民活動ということに関連した提案といいますか、漠としたものですけれども、就職先としてのNPOあるいは就職先としての公益団体、こういう方たち、こういう学生、こういう求職者に対する情報提供は、本来であれば、ハローワークなり雇用に関するセクションがやるものでしょうけれども、あり方論としてNPOへの就職あるいは公益団体への就職というのをもうちょっと全体的にバックアップできないか、あるいは情報支援ができないかということを漠然と考えております。

ハローワークは、一般企業に勤めさせたがりますね。NPOとかハローワークの職員自身がNPOとか公益団体といった情報提供が進んでいるとは言えないと思うのです。そういったときに、それに対して、しみサポがどこまで情報提供できるか、バックアップできるか、アテンドできるかは難しいと思うのですけれども、そういったことも視野に入れつつ、活性化を目指していくのもありなのかと考えております。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

現状では、どういうふうに関係職員などを募集されているのですか。

○荒井委員 ちなみに、しみサポの相談窓口に関係したいのですがという相談が寄せられたことは過去11年の間にありましたか。

○事務局（森口） ほとんどないです。ただ、仕事をしたいけれども、スタッフの募集などはあるのですかという話は、年間に1件か2件ぐらいあります。募集のタイミングもあり、情報提供まではできていないのが現状です。

○荒井委員 募集の情報がしみサポに入ってくるわけではないですね。

国内の事例としては、市民活動サポートセンターのほうでNPOなり公益団体なりの募集状況がある程度わかるというシステムをとっているところはあるのですか。

○事務局（森口） インターネット上で求人情報をまとめたサイトがあるほかは、NPO団体ごとの活動となっているという印象を持っております。

○荒井委員 何を求めて来るのか知らないのですけれども、うちのほうにそういった関連で募集しているところはありませんかというのが来ることが多いです。昨年でも三、四回あったのです。バイト、正職員で募集している団体はありますかと言うので、ネットで調



べて教えてあげたり、今度、恵庭で何とかかんとかと教えてあげたりするのです。今後、そういった情報の交通整理というものも視野に入ってくると考えております。以上です。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

○草野委員 中協委員はしゃべれることはいっぱいあるのではないかと思います。まさに学生から入ったのですからね。

今、e z o r o c kは、その機能を担いつつありまして、どんどん就職させていっています。今、うちは300人ぐらいいて、6割は学生で4割ぐらいは社会人になってきてまして、学生時代にそういう経験して、自分の進路を変えて、ソーシャルセクターに人生をかけたいという子がふえてきています。

僕のほうにも求人がやたら来るのです。これで、いい話でもあればいいのですけれども、人材のマッチングは本当にデリケートな話で、責任も重いです。しかも、僕としては、2年間、手間暇かけて育てた人材を簡単に下さいとか言われると、頭がかちんとくるのです。そういうものではないですねという話で、怒るところから始まるケースが多いのです。

ただ、一つは、学生でNPOを一生懸命やっていた人が就職先で物すごく困るのです。一般企業に入って、気持ちはよくわかるという顔をしていますけれども、そうなのです。人生、とても困るのです。就職課に行っても、ちゃんと就職先を探したほうがいいですよとか、NPOはお勧めしませんとか、国の制度で地域おこし協力隊みたいなまちづくり、地域づくりのことは、契約で3年間しか続けられませんからお勧めしませんと言って窓口で切ってしまうのです。しかし、NPOとしては、新しい人材を求めている、そこを発展させていかないと次に続かないというのは、僕たちは問題意識として持っているのですけれども、ナビゲーションをする機能が非常に弱くて、ふわふわ浮いています。それで、行き場を失って、僕にフェイスブックで相談に乗ってくださいみたいなのが来るという状況です。

そういう意味では、しみサポを利用している人たちの層はかなりかぶっていると思います。恐らく、迷いながら、また、一般企業か、青少年女性活動協会はかなり人気のあるところで、ソーシャルセクターに行きたいけれども、ある程度収入もきちんとしているところで、選択肢としてはここに入ってくるというケースも非常に多いと思います。

ですから、この施設にそういった機能を一部でも担っていけるのは、僕たちは需要があるのではないかと考えていますが、いかがでしょうか。

○隼田座長 中協委員、お願いします。

○中協委員 まさに、私も卒業してから路頭に迷ってしまいました。私は、一般社団法人A I Sプランニングというところで、学生時代にボランティアをしていた場所でもありまして、そこにたまたま拾っていただいたということがありますが、学生時代にすごくおもしろいことをしていた人であっても、結局、就職してしまって、仕事に割く時間がふえて、プライベートの時間を使って何かをしようと思えないみたいになっていって、社会人になると詰まらなくなってしまうのだなと感じていました。

就職の話とちょっとずれてしまうのですけれども、そもそも、このNPOの団体を検索するようなサイトがないと思っています。北海道とか、札幌市のホームページから検索できるページには飛ぶし、札幌まちづくり総合情報ポータル 사이트でも団体検索のページがありますけれども、何かすごく難しく見えるし、ページが見られても、写真が全く載っていないくて、説明も難しく、公的な文章、ページみたいになっていまして、近寄りがたいものに見えるなどふと思いました。

ですから、実現可能かどうかはわからないですけれども、札幌市だけでも相当な団体数がありますので、そういうものがもうちょっとポップに見えるようなサイトがあったら、もっと近づきやすいものになるし、そのサイトの中で、私たちの団体はこういうことをやっていますとか、こういうことができますということと、何々を募集していますということで、人材もそうですし、物なのか、金銭的な支援なのか、そういうものも団体のページをぱっと見るとぱっとわかるみたいなホームページがあったらいいのにと考えていました。

「みんなのしみサポ」はすごく上手に編集されていると思います。今回の特集も自転車となっていますけれども、普通だったら、環境というふうにくくられてしまう枠だと思うのですけれども、一般の人から見ると環境という枠から見るものではなくて、自転車から見たほうが、ちょっと見てみたいかも思ったりします。「みんなのしみサポ」の裏側でも団体紹介がされていますけれども、こういうものがもっとわかりやすく見られるホームページなり何らかの媒体があったらいいなと思っています。

就職の話からそれてしまっ、済みません。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

それでは、安岡委員、お願いいたします。

○安岡委員 今の意見を伺いまして、大変耳が痛い部分がありますが、まさに今、そういった団体の情報をどう出していくかというところを考えています。

札幌市の私たちNPO法人のほうを所管しているところでは、今、NPO法人の認証団体、それから、市民活動サポートセンターに登録している団体、また、私どもはさぽ一とほっと基金も所管しておりまして、そこに登録している団体という三つの団体の情報がばらばらに管理されている状態です。

それは、登録する方にとっても非常に不便であったり、我々のほうも管理する立場としてその三つを管理しなければならないということで非常に難しい部分があります。

ですから、その情報を統合しようと考えました。例えば、さぽ一とほっと基金に申し込んだときに、サポートセンターも申し込める、NPO法人に認証を申請したときに、さぽ一とほっと基金の登録とか、サポートセンターの登録もしやすくすることも考えていて、その情報についても発信しようということです。

それに加えて、団体からも自分たちの団体はこんな活動をしていますとか、今、こんな活動をしようとしています、募集しています、イベントがありますという情報を発信できるようなシステムを、今、まさに検討しています。そして、来年度には使える形にしたい

と思っていますが、まだ予算が認められていないのですけれども、まさに要求していて、今週の金曜日に議会で認められればそれをつくり出すというところです。

それをつくるに当たっては、今、近寄りがない、もっとポップに見えたらというようなお話がありましたけれども、我々だけでつくるのではなくて、もちろん、市民活動サポートセンターとも意見を交換しながら、あるいは、使っていただく団体、これだったら登録したいなと思ってもらえるような、そういった情報の入力仕組みにもしたいと思います。

それを使うことによって市民の皆さんが市民活動を何かやりたいなと思ったら、ここを見れば何でもわかるよと。見やすいなという形で、ポップになるかどうかはわかりませんが、いろいろな方の意見を聞きながらいいものができたらなと思っていますので、まさに、つくっていく過程でいろいろな方のお話を伺いながら、より使いやすい、継続して使っていただけるものをつくっていきたいと思っています。ですから、ご意見を寄せていただいたり、実際に使ってみるためにはどうしたらいいかというお話もさせていただいたらと思っています。よろしく願いいたします。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

一つ、質問です。

今の予算がおりればということですが、そうしますと、随分前から市民活動サポートセンターの札幌まちづくり総合情報ポータル団体のデータベースが不評だったので、それがこれで更新される形になるということですか。

○安岡委員 それについては、今後、調整となるのですけれども、基本的には、そのデータベースも一度さらにしてまとめ直すという考え方です。

たしか、1年前のこの会議が終わった後に、隼田座長から、総合ポータルが総合ではないのではないか、ポータルとしての役割はどうなのだろうという部分もありました。そのあたりも含めて、これからになると思うのですけれども、サポートセンターと私どもで話をしながら、ポータルのあり方がよりよい形になるようにということも含めて見直していきたいと思っていますところでは。

○隼田座長 どうもありがとうございます。

そこについては、何年も前から懸案事項でずっと来ていましたが、いい方向に進めそうだということで、皆さん、希望を持っていいのではないかと思います。

さて、今、幾つかご意見が出ましたけれども、ウェブ上でのインターネットを介した情報の提供の仕方もございますが、就職先としてのNPOみたいな話が先ほどございましたけれども、その情報の提供の仕方は、ほかに何か、例えば、市民活動サポートセンターのこの場をうまく活用するような形でのご意見とか、もしくは、事業として市民活動サポートセンターの今後の事業として検討したらいいのではないかとというような形でのご提案なども、もしあれば、多分今後のアドバイスとして使えるのではないかと思いますけれども、いかがですか。

平井委員、お願いいたします。

○平井委員 私の団体も、K a c o t a mという団体と協力して学習支援などをしてはいますが、とても多くの学生や、社会人の方もボランティアでやってくださっています。学生向けのボランティアを自分たちもしているけれども、NPO法人として職員になった場合にどういう仕事があるか、どういうことがあるかというのを講座としてつくってもいいと思いました。

○隼田座長 どうもありがとうございます。

ほかに何かございますか。

いろいろな若者向けの講座もふえてきている中で、そういうものも一つの選択肢としてあるのではないかと思います。

工藤委員、お願いいたします。

○工藤委員 工藤でございます。

前回、しゃべり過ぎてしまいまして、削っていただきましたが、きょうはじつところえていました。

今、就職の話が出ました。つまり、NPOそのものが就職という観点からいけば、ボランティアに近い部分があるというイメージがありまして、就職ということで窓口に来ているとするとすることはなかなか難しいのだらうと思います。たまたま、私が所属しております桑園交流ネットワークというものがありますが、ここは働く人が次から次へと来るのです。それは主婦が中心ですけれども、その中で、どこかにいいところはありませんかと。この団体は、NPO法人ではないのですが、札幌市から助成金をもらいながら事業を進めておりまして、桑園地区の連合町内会のホームページを下請しているのです。それから、桑園に引っ越してくる人たち向けに新たにホームページをつくり直しまして、今、とても活用されています。我々もその活用の状況を見ることができて、とても活発にアクセスしてきているのだなと思います。

実は、そこは、ECOカフェというNPO法人が、市民が集えるようにしてはあったり、いろいろな習い事とか教育機関でびっしり埋まってしまって、1カ月のうちにあいているところがないぐらいにぎわっています。

ですので、そこを通じて、いろいろな部分を紹介することができて、今話を聞いてネットでどこにアクセスしたらどこにつながっていくということがはっきりわかると、とても見やすいといえますか、利用しやすいという気がします。

もう一つは、就職という話になると、NPO団体の甲乙が全然わからないのです。前回も話したのですけれども、活動していないようなNPO法人が余りに多いので、精査するといえますか、ランクづけするとか、認定するとか、こういう制度が独自にあってもいいのではないかとこの気もしています。

ある程度の評価をクリアさせたNPOは、むしろどんどん人気が出てきて、就職もそこに見てみたいということになると思います。

たまたま、ミニ大通お散歩まつりをやっていて、実際は、参加する人たちがふえ過ぎて

しまつて、実行委員がとめているのです。今、専門学校を含めた学生たちが100人単位で申し込んできます。

自分たちが子どもたちと一緒にたつて体験できる催しを企画しているのですが、その中で一番人気があるのは、ここにもボランティア体験隊！というのがありますが、ケーキづくりとキッザニアがあふれてしまうのです。親と子どもたちが一緒にたつています。

ことしも9月13日の日曜日にありますけれども、もし時間がある人がいらつしゃいましたら、ちらつと見ていただきたいと思ひます。天気がよければすごい人になります。今、市立大学、北大、教育大学の人も実行委員として参加してあります。私は今まで実行委員長だったのですが、ことしの総会で若い人に譲つてあります。

とてもいい組織といひますか、しみサポのこれを見てもすごく進化していると思ひます。これはすばらしいと思ひます。意見というよりも、頑張れと応援したいところですよ。

○隼田座長 どうもありがとうございます。

そのほかに何かございますでしょうか。

○千葉委員 千葉でございませう。

今、ホームページの話などがいろいろ出てあります。「みんなのしみサポ」の39号が出版して、私は毎号読んでありますが、39号からデザインが一新されてあります。これは、5,000部発行でボランティアの方が編集会議を行つて編集されていると聞いてあります。

今回変わった背景や経緯、狙いなどがありましたら教えていただければと思ひます。

○事務局（森口） ありがとうございます。

情報誌についてですが、千葉委員にお話しいただいたとおり、39号、今年度発行分から、新たな方針を定めてリスタートしているところでありませう。

一つ目ののは、より多くの市民の方に手にとつていただける誌面づくりをする、ということですよ。具体的には、私たちサポートセンターやNPOの側が伝えたいことではなく、市民の方が知りたいとか身近だということを中心に据え、記事づくりを行うということですよ。

掲載内容については、編集ボランティアスタッフと協議し取材活動をすすめています。

また、現在、市民活動に取り組んでいる方に向けては、専門的な相談事例などを載せながら活動にプラスになるような情報を発信してあります。これらの2本を柱として製作を進めてあります。

実際にこの誌面づくりを行つていく上では、編集ボランティアスタッフの方たちの力が大きく、現在は12人の方が活動してあります。さらに、編集ボランティアスタッフの活動としては、編集会議だけではなく、研修も行いスキルアップも図つているところですよ。

編集ボランティアスタッフの活動や情報誌作成業務の詳細については、担当職員の田村から説明いたします。

○事務局（田村指導員） 編集ボランティアスタッフについては、年度当初にはオリエンテーションを行い、活動目的の共有を図つてあります。

また、今年度は2回の研修会を実施してあります。

1回目の研修では、地域コーディネーターかどま～る代表の喜多さんをお招きし、市民活動の基本的な理解についてワークを行いました。2回目では、北海道ブックシェアリングの荒井さんをお招きし紙面の構成や記事の編集など、情報誌をつくるに当たって必要となるスキルや心構えについて学びました。

編集ボランティアスタッフの方たちからは、活動を進める中で課題となることや、市民活動や市民生活を取りまく社会の動向などについての質問がありました。

また、取材活動や記事についても、取材者の視点で書くのがよいか、またはNPO団体側の視点がよいのかという議論もありました。これらについて、講師からはまず編集会議に重点を置き、それぞれが取材して考えたこと、得た情報などを出し合い、テーマに合わせて統一を図ることが必要であるというお話をいただきました。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

ほかに何かございますか。

(「なし」と発言するものあり)

事務局のほうはよろしいですか。

○事務局(森口)

今年度の事業を進めるにあたり、子ども、若者に特に重点を置き、いかに裾野を広げていくかというところが我々にとって課題になっております。

NPO活動に関わる際の考え方、仕事としての活動のあり方などについてお話をいただき、非常に感謝しております。引き続き、ご意見をいただければと思っております。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

若者とこういう市民団体をどういうふうにつないでいくかというのは、いろいろな試みができるような感じがしました。

#### 【平成27年入居分事務ブース使用団体選考】

○隼田座長

続きまして、三つ目の議事の平成27年入居分事務ブース使用団体選考についてです。

事務局からご説明いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○事務局(森口)

この選考委員に関しましては、第7条、選考委員会で、「選考委員は、サポートセンター事業運営協議会委員のうちから同協議会において推薦されたものを含む市民活動に関する有識者及び札幌市所管局長及び課長及び理事長または理事長の指名するものの7名以内の委員をもって組織する」と定められております。そのため、この会議の場をもちまし

て、運営協議会の委員の中からお二方を委員として選定していただきたいと考えております。

今回の選定いただく委員のお二方については、年度更新に係る4月入居分の団体についても継続して選考いただきたいと考えております。

○隼田座長 それでは、委員の選出ということですが、事務局は何か提案はございますか。

○事務局（佐々木市民活動担当課長） 事務局の佐々木でございます。

事務局としましては、隼田委員、そして草野委員を推薦したいと考えております。

ご審議よろしくお願いたします。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

いかがでしょうか、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○隼田座長 それでは、草野委員、よろしくお願いたします。私と2名で務めさせていただきますと思います。

それでは、議事は以上でございます。

最後に、皆さんからご意見、コメント等がございましたらお願いたします。

平井委員、お願いたします。

○平井委員 今後の事務ブースの活用についてですが、全部埋まらなかった場合についてですが、リーススペースがいつも満席のときがありまして、リーススペースを広げるといのも一つの考えだと思っております。

また、事務ブースにはドアがないので、お話が皆さんに漏れてしまうのですね。例えば、私のような団体が入りたいなと思っても、相談を受ける場合は、別室を借りなければならず、以前加入していた団体でも、余り聞かれないような相談を受ける団体も入っていたと思うのです。話がほかの皆さんに漏れてしまうということもありましたので、相談を受けられるようなスペースを設けていただくことも考えの一つに入れていただけたらなと思っております。

○隼田座長 完全に囲われて扉がついているようなところですね。ちょっとした相談のときにそこを借りて使えるような形ですね。

ほかに何かございますか。

草野委員、お願いたします。

○草野委員 話が少し戻ってしまうのですが、先ほどのデータベースのことで、この施設の相談員の方も閲覧できるような一元管理されたデータベースになっていくと考えていいのですか。

○安岡委員 具体的にどういった形かは決まっていますが、あくまでも基本情報を札幌市やサポートセンターが登録して、その中で出せる情報については、インターネット上に出します。そのインターネット上に出す情報については、各団体も自分たちの活動を入力

していただけるようなものにしたいということですので、ここの相談員が見られる範囲をどこにするかというのは、まだ検討していない段階です。もちろん、インターネット上で出したものは見ていただけますけれども、それ以外のところをどうするかというところまではまだ決定していません。

○草野委員 その権限をどこまで託して、個人情報をごこまでの管理かという話になると思います。ただ、一元管理するのはとても興味深いと思いました。e z o r o c kの例で言うと、札幌市の13階まで上がってご相談に行くこともありますし、取材を受けることもありますし、ここでいろいろ話していることで、情報は分散していたり、担当者がかわったときに前の情報が引き継がれていないということがあります。それは、ここの施設の仕組み上、仕方がないと思うのですが、それをどう次にパスしていくかというときに、一元管理しているシステムの記録のとり方と引き継ぎの仕方が顧客管理の考えと表裏一体になると思います。中間支援をするときには、使い方次第では物すごく力を発揮するのではないかと思います。あとは、日常的に使えるものになっていくのか、使えるというのは、現場レベルですね。相談を受ける方々が記録をとって、それが共有されていく仕組みまで権限が渡せるのか、もしくは、本当にかちがちにしまって、どちらかというと同じような情報しか見られなくなるかによって大分差が出ると思いました。

○安岡委員 あくまでも基本情報を入れて市民に対して情報発信をして、その活動に参加してもらおうというイメージのほうが強かったのです。今のところは、その団体情報の随時の記録を入れるところまでは考えていなかったのです。実際には、そういった団体の記録的なものを入れたほうがいいのかということについては、今後、検討していきたいと思います。もし記録するとすれば、どこまでの範囲で、そのアクセス権を与えるのかというあたりも変わってくると思いますので、それは検討項目とさせていただいてよろしいでしょうか。

○隼田座長 工藤委員、どうぞ。

○工藤委員 前回も言ったのですが、そのデータベースの部分に札幌市がやっているさば一とほっと基金を団体指定でやれるというのは、NPOにもちゃんとリンクして支援できるようにして、団体を指定して、このNPOに協賛したいということができれば最高にいいという気がします。

○安岡委員 予算の関係などもありまして、今の段階ではそこまでいかないと思います。ただ、募金については、企業のデータベースへのかかわり方や、募金をどう集めるかといった部分については今後の課題かなと思います。例えば、今、大阪市でもクリック募金のようなことをやっています。そういった募金も含めて団体指定までできるかどうかかわからないですが、NPO法人の活動に対する募金というのは市民活動の一つのあり方だと理解していますので、そういったことも含めていければなというところですね。今、できますという形ではお返事は難しいと思うのですが、検討は進めていきたいと思います。

○工藤委員 そこを含めて、そういうものを周知する方向があるのだとか、そういうもの



ができれば、できることがわかるようになったら、そういうものをどんどん発信すると思うのです。市民活動サポートセンターから発信するというのも一つの方法だと思いますので、ぜひできるようにお願いします。

○安岡委員 せっかくつくるので、おっしゃっていただいたように、市民活動サポートセンターがここに来れば市民活動の全てがわかるということと同じように、ホームページで、ここに来れば何かがある、何でもできる。何でもというのは言い過ぎかもしれませんが、そういったページにできれば、データベース化して発信できる形にはしていきたいと思っています。実際に、今、うちの担当でも開発の業者と下打ち合わせしているところで、我々が希望するものを実現するためには少しハードルが高いという部分もあります。ですから、過渡の期待をしていただくのはきつい部分もあるかもしれませんが、できるだけよい形だと思っていますので、いろいろな意見をいただければと思います。

ありがとうございます。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

データベースなどは、一度つくってしまうと、現状のものでもそうですけれども、システムを更新するのはなかなか難しいですね。でも、今、いろいろな希望があって、予算との関係もありますので、例えば、将来、拡充しやすいような仕組みにしておいてもらって、設計上、そういう要望などを出しておいていただいて、次の予算でまた何かというのがやりやすいと思います。

○安岡委員 それについては、皆様のご意見をしっかり受けとめて、できるだけご希望に沿った形で進めるようにやっていきたいと思っています。ありがとうございます。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

ほかに何かございますか。

荒井委員、お願いいたします。

○荒井委員 僕らが事務ブースに入っていたときに、顔合わせと申しますか、事務ブースの各メンバーの中で交流会があったのですが、今、入居団体の交流会は、こういったタイミングで、どのような感じでやられているのでしょうか。

○事務局（森口） 事務ブースの入居団体交流会については、オープン当初から続いているというお話を伺っており、現在も続けております。

例年、5月もしくは6月ごろに実施していたのですが、平成26年度に関しては、もう少し時期が後になり、7月5日に実施しております。我々が呼びかけるのではなく、事務ブースの入居団体の方で声をかけ合っていて、共催という形をとられていただいております。

今年度については、まだお話をいただけていませんが、この後、ご要望いただけるものと考えております。

○荒井委員 その中に幹事になる団体があると思うのですが、情報提供の一つとして、星園に入っている団体から、何か話が聞きたいとか状況が聞きたいということでした

ら、事務ブースの交流会は交流会として、それとは別に星園の入居団体から話を聞こうとか、ちょっと交流してみようとか、そういうことも可能であれば幹事に提案していただければと思います。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

なかなかいいご提案だと思いました。やはり、市民活動自体は市民活動サポートセンターだけでは終わらないので、そこから先の部分も含めていろいろとネットワークが広がっていくという提案は、活動を活性化させる上でいいのではないかと思います。

ほかに何かございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○隼田座長 それでは、札幌市市民活動サポートセンター平成27年度第1回運営協議会の議事を終了したいと思います。

長時間、どうもありがとうございました。

○事務局(田村指導員) 隼田座長並びに委員の皆様、ありがとうございました。

それでは、最後に、札幌市市民活動担当課長の佐々木よりご挨拶申し上げます。

○事務局(佐々木市民活動担当課長) 本日は、市民活動サポートセンターの運営につきまして、いろいろとご審議いただき、ありがとうございます。

協議会は年2回ということで、この後、半年後にまた行われますけれども、委員の皆さんには、協議会にこだわらず、たくさんご意見を言っていただきたいと思います。

特に、市民活動サポートセンターには、フェイスブックページもございます。ごらんになっている方も多いかと思いますが、なるべく生の情報を流していきたいと思いますので、ぜひ「いいね」と押していただければと思います。

私どもも、今、いろいろな計画をお話ししましたが、形どおりに進めるのではなく、こういったご意見を取り入れながら、模索しながら進めてまいりたいと思いますので、ぜひ、そういった場面ではご協力のほどをよろしくお願いいたします。

皆様、本日は本当にどうもありがとうございました。